

釧路南ロータリークラブ会報

第 37 回 例 会 報 告 2009.4.17 通算 1297 回

・点 鐘 長倉副会長

・ロ - タリ - ソング
「それでこそロータリー」



ソングリーダー 長江 勉会員

・誕 生 祝
長倉 巨樹彦会員 S 36. 4. 15 (48 歳)



・会 長 換 拶 長倉副会長



本日は、北上会長は欠席です。昨日、15日が私の誕生日でした。誕生日に生まれて初めての経験をしました。弊社では、グループウェアというPCでのアプリケーションを使っておりましてこれは、遠隔地の支店等も含めた会社内での情報交換のシステムで、スケジュールや掲示板、タイムカード、電話メモ等を共有、もしくは伝達できる仕組みです。その中で、15日に自分の誕生日をスケジュールに入れておりましたら、誤ってスタッフが削除してしまっていたようでした。それで、削除したお詫びも兼ねてバースディカードが届きました。男性からは初めてでしたので、結構はずかしいやらうれしいやらで、でも自分の誕生日を覚えてくれている人が一人でも多いとその分うれしいということが良くわかりました。そういう意味では、ロータリーの誕生日をお祝いするという習慣は非常に良い事だと感じた次第です。いよいよ来週は旭川で2500地区の地区協議会が開催されます。当南クラブからは10名の参加予定となっております。25日がPTES、米山記念奨学会委員会セミナー、会員増強委員会セミナーと会長、幹事、地区委員長の懇親会が開催され、翌日26日(日)が地区協議会、分科会他となっております。スケジュールや車の乗り合わせ等は追って時期幹事から案内をお送りします。私からです。クラブからの補助については、本日、理事会で決定いたします。

・幹 事 報 告



- * 厚岸RCより4月の会報を拝受しております。
- * 釧路北ローターアクトクラブより2・3月例会報告を拝受しております。
- * 釧路青年会議所より2009年度理事長年頭所感を拝受しております。
- * 次週25・26日は地区協議会です。参加される会員の皆様お忙しい中ありがとうございます。私は、25日例会終了後長倉幹事と一緒に一足先に出発します。運転には十分気をつけて来て頂きたいと思っております。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
長倉 巨樹彦会員 誕生祝として

出席委員会

会員 27名 11名出席 40%

・本日のプログラム

「ロータリー雑誌月間に因んで」

担当 メディア委員会

・渋谷メディア委員長



4月 雑誌月間 (Magazine Month)

はじめに・・・RIの公式機関紙『ザ・ロータリアン』および世界30の地域雑誌の講読と、活用促進に役立つプログラムを実施する月間です。ロータリーの雑誌（『ロータリーの友』など）に対する会員の認識をクラブはこの月間に雑誌に関するプログラムを実施しなければなりません。チェスリー・ペリー・国際ロータリー初代事務総長によって創刊された、『ザ・ナショナル・ロータリアン』（1912年に『ザ・

ロータリアン』に改称）が発刊された1911年1月25日を記念して、当初1月25日を含む1週間を雑誌週間としていました。『2001年手続要覧』の「ロータリークラブ定款」の「第13条ロータリーの雑誌」では、各会員は、会員身分を保持する限り、RIの機関雑誌、または国際ロータリー理事会から、本クラブに対して承認ならびに指定されている地域的なロータリー雑誌（日本では『ロータリーの友』）を購読しなければならない、と定めています。

ロータリー・ワールド・マガジン・プレスの歴史

ロータリーとともに成長

国際ロータリー（RI）は今日、ほかに例を見ない独特なコミュニケーション・ネットワークをもっています。『THE ROTARIAN』は、アメリカ・イリノイ州エバンストンにあるRI世界本部で発行（出版）されている英語のRI公式雑誌で、約50万部発行されています。また、世界の各国で30の地域雑誌が23か国語で発行され、130か国の人々に読まれています。その部数は、766,000部にもなります。

これら、『THE ROTARIAN』と地域雑誌を合わせた31の雑誌を総称して「ロータリー・ワールド・マガジン・プレス」と呼んでいます。このコミュニケーション・ネットワークは、ロータリーとともに着実に成長してきました。

『THE ROTARIAN』の前身である『THE NATIONAL ROTARIAN』は、1911年1月、初代RI事務総長のチェスリー・R・ペリーによって、創刊されました。創刊号の中で述べられているように、その雑誌はペリーとロータリーの創始者であるポール・ハリスが、「すべてのロータリークラブだけではなく、すべてのロータリアンへ」メッセージを伝える手段でした。ロータリーの雑誌は、今もなおRIのリーダーと世界中の一人ひとりのロータリアンとを結びつける、唯一直接的なコミュニケーション手段としてその使命を果たし続け、ロータリーの情報を読者に伝えています。

最初の地域雑誌は『THE NATIONAL ROTARIAN』の発行から間もない、1915年に英国・アイルランドで創刊され、その後、1920年代になり、オーストラリアで『ROTARY DOWN UNDER』の前身である地域雑誌が出されました。『ROTARY DOWN UNDER』

は後に、地域雑誌が、一定の基準を満たし R I 理事会で承認されれば、その地位が約束されるという制度をつくるのに。後に、このオーストラリアの雑誌は、R I から最初に承認されることになりました。また、1920~30 年代にはヨーロッパで幾つかの地域雑誌が創刊されましたが、第 2 次世界大戦のため、休刊を余儀なくされました。

ラテンアメリカの 3 つの地域雑誌を創刊したのは、ロータリーのリーダーたちでした。ペルーの公式地域雑誌である『EL ROTARIO PERUANO』は、1942 - 43 年度 R I 会長のフェルナンド・カルバジャール氏によって、1933 年に創刊されました。1974 年に創刊された『ROTARISMO EN MEXICO』の最初の編集長は、2000 - 01 年度 R I 会長のフランク J. デブリン氏です。そして『BRASIL ROTARIO』の前身の会報『NOTRAS ROTARIAS』は、1924 年に J. トーマス・サボヤ・シルバ氏によって創刊されましたが、彼はその後、創立されたりオデジャネイロ・ロータリークラブの会長を務めました。

日本では、1952 年 7 月に、地区が 1 地区から 2 地区に分割されるのを機として、両地区で情報を共有することができるような雑誌をつくろう、という提案がされ、1953 年 1 月、『ロータリーの友』が創刊されました。創刊号の部数は 3,300 部でした。

地域雑誌を公認

長い年月をかけ、いくつかの壁を乗り越え、ロータリー・ワールド・マガジン・プレスは発展してきました。地域雑誌は、R I によって始められたのではなく、それぞれの国のロータリアンによって、始められたのです。地域雑誌はその地域情報も交えつつ、R I からの情報も提供している、ロータリー情報の宝庫で、その多くは発行されている国の言葉で書かれています。初期のころは、このような出版物を管理したり、保護したりする規則や公式の方針はありませんでした。それどころか、地域雑誌は『THE ROTARIAN』のライバル誌とさえ、思われてもいたのです。

地域雑誌を公式に認めようという考えは徐々に広まり、地域雑誌に関する規則やガイドラインが作られました。そして、R I に「承認され、規定された」公式地域雑誌を、という制度を推進するキャンペーンが、1970 年代の半ばにロータリアンのポール・ヘンニングハム氏によって始められました。当

時、彼はオーストラリア、ニュージーランド、オセアニアで発行される『ROTARY DOWN UNDER』の編集長でした。

1977 年の 10~11 月の R I 理事会決定事項抄録によれば、1977 年サンフランシスコで開催された規定審議会において、決議 77 67 が採択されています。これは、各ロータリークラブの会員は、公式雑誌（『THE ROTARIAN』）あるいは規定されたロータリーの地域雑誌のいずれかを購読すればよい、という選択を与えたものです。一部分、この規定は、R I 細則第 19 条で、下記を加えることによって変更されました。

第 3 節 (a) 米国およびカナダにあるもの以外のクラブは、後段に規定する場合を除き、その正会員、シニア・アクティブ会員およびパスト・サービス会員のそれぞれが、国際ロータリーの機関雑誌または国際ロータリーの理事会が承認し、当該のクラブに対して指定した地域的なロータリーの雑誌の有料購読者となり、そして本人が会員となっている限り、その購読を続けることを、会員身分保持のための条件としなければならない。

R I 副会長のケン・シェラー氏は、R I 理事会レベルでのこのような改革に、とても積極的でした。この決定がされる以前の、ロータリーの初期の方針では、ロータリアンが地域雑誌を購読するという選択肢はなく、『THE ROTARIAN』が、当時世界本部で発行されていたスペイン語の『REVISTA ROTARIA』の購読を義務付けるものでした。もちろん、日本のロータリアンも、これらの雑誌のどちらかを購読しなければならなかったのです。『ロータリーの友』が公式地域雑誌として R I から承認されたのは、1980 年 7 月号からです

・ 次回のプログラム

4月24日(金)

「新入会員卓話」

会場 釧路ロイヤルイン 11F

担当：会報委員会

・ 点

鐘

北上会長

今週の会報担当：佐藤玄史会員